

2021 年度 【 就労・日中 】 支援部会報告

部会テーマ【 自分たちの支援を高めるために 】

部会開催	○幹事会議（7/21） ●第1回部会（8/4） 17 時半～19 時半 参加者 31 名 ① 緊急時の受け入れについて（障害福祉課） ② 今年度テーマを下に情報交換
	●全体研修会（11/8） 参加者 58 名 「豊かな実践を育むケア会議の持ち方」 佛教大学・塩満卓先生
情報・意見交換の内容	① 障害福祉課から「緊急時の受け入れ（地域生活支援拠点事業）」について利用者への周知依頼 ・対象者・事前登録方法 ・緊急時支援の流れ ・周知チラシの配布 ② 今年度テーマ「自分たちの支援を高めるために」をもとに情報交換 ○事業所で工夫して、取り組んでいること ・内外研修への参加 外部の研修に参加したり、講師を招いて内部研修を行ったりしている。コロナ禍で Web 研修が増えて、リモート参加しやすくなった。 ・事業所内のケース会議 定期的にケース会議をしている。職員が積極的に発言できるように、意見を否定しないように気をつけている。個別支援だけでなく、施設の課題も検討している。 ・職員の情報共有 職員同士が連携しやすくするために、引き継ぎなど日々の情報共有を大事にしている。ミーティングで利用者の変化や職員の気づきを報告してもらっている。 ・業務の効率化 利用者と関わる時間を増やすために、記録をオンライン化している。 ・資格取得の促進 資格取得のために補助を出したり、有資格者には手当をつけたりしている。 ○課題に感じていること ・職員に研修を受けさせたいが、支援体制がなくなるため、外部研修に参加できない。 ・ケース会議の時間が持ちにくい、進め方が分からない。 ・職員が定着せずに、慢性的な人材不足が続いている。経験ある職員が辞めるので、利用者支援に影響している。 ・職員が情報を得る機会がない。外との繋がりが少ない。 ・業務に追われて、職員同士のコミュニケーションが希薄になっている。 ・研修がオンライン化されているが、事業所に個室がなく、研修を受ける環境がない。

2021 年度 【 入所・グループホーム 】 支援部会報告

部会テーマ【 自分たちの支援を高めるために 】

部 会 開 催	○幹事会議（7/9、8/17、9/10※Zoom） ・密回避の為小グループでの部会実施を決める ●第1回部会：テーマ「<u>コロナ禍における暮らしの場支援の現状を共有する</u>」 Aグループ（9/7）参加者 6 名 ※オンライン開催 Bグループ（9/16）参加者 6 名 Cグループ（9/28）参加者 8 名 ●全体研修会（11/8） 参加者 58 名 「豊かな実践を育むケア会議の持ち方」 佛教大学・塩満卓先生 ○幹事会議（12/1） ・第1回各グループのまとめと第2回部会について ●第2回部会：テーマ「<u>グループホームにおける感染症対策について</u>」（1/19） 参加者 16 名 ※オンライン開催 ・感染症対策2事例の報告～明日から取り組める感染症対策を考える～
情 報 ・ 意 見 の 内 容	●コロナ禍における感染予防 ・ワクチン接種の実施。中には打ちたくない人もおり配慮も必要。 ・余暇外出の自粛は利用者理解が難しい。 ・買い物や外出は全面禁止にせず、混雑していない場所や時間帯を選んでいる。又はホームで焼き肉、施設内で模擬店実施など出掛けずに楽しめる工夫をしてきた。 ・食事場面はリスクを避け部屋食対応。食卓を囲む楽しみが持てていない。 ○陽性者、濃厚接触者の対応 ・感染拡大を最小限に食い止めるためには、発覚後の初動が重要。 ・即座に陽性者の隔離支援体制が必要となる。世話人のリスク回避の為、職員による支援体制を想定。通常業務をどう削って有事に対応するのか。事前の検討対策が必要。 ・世話人が陽性、濃厚接触となれば支援体制が逼迫。暮らしの支援は止められない中、体制確保の不安が大きい。 ・GH内でのゾーニングは困難。隔離場所を確保できない事業所も多く、課題。 ・コロナは災害。だからこそマニュアルは重要。それぞれの事業所に則したものに。 ○コロナ感染防止対策マニュアルについて ・適時の判断、情報共有のアイテムとして有効活用できるものに。 ・暮らしの場での生活支援をどう継続するのか、シュミレーションしておくとうい。 ・何よりも初動の重要性。陽性者支援は調理を省くなど業務を簡略化。 ・経験をマニュアルに落とし込みブラッシュアップしていく。 〔マニュアル事例の感想〕 ・大変参考になった・まだマニュアル整備できていない、法人全体で取り組みたい ・感染が沈静化してきて安心していましたが、今また危機感を持った・重症化した時の課題がある・スタッフが感染持ち込まない為のマニュアル整備が必要。

2021 年度 【 地域生活 】 支援部会報告

部会テーマ【自分たちの支援を高めるために】

部 会 開 催	○幹事会議（7/15、8/26、9/2） ●第1回部会（10/14） 参加者 8名 ・「コロナ禍においての訪問時の対応について」 FAXにて質問・意見を募り、部会にて意見交換や検討を行った。
	○世話役会議（11/18） ●第2回部会（1/27中止） ・社会福祉協議会の役割紹介とケース検討会 社会福祉協議会の権利擁護・生活支援相談など具体的にどのようなサポートを行っているか、どういうときに連携をお願いできるかなどの情報共有を行う予定であった。コロナ感染拡大のため開催は見送りとなった。
	●全体研修会（11/8） 参加者 58名 「豊かな実践を育むケア会議の持ち方」 佛教大学・塩満卓先生
情 報 ・ 意 見 交 換 の 内 容	●コロナ禍においての訪問時の対応について ・コロナ禍で外出はどうしているか？→買い物は通常通り ・利用者のマスク着用はどうしてるか？→着用の促しは行い、利用者の判断に任せている。 ・マスク着用しての入浴介助の苦しさについて→立体的になるマスク枠を利用する。換気の許可を得て行う。 ・利用者からコロナの間違った情報を聞かされた時どうしているか？→否定せず同意もせず「へ～そうなんですか？」と疑問形で傾聴に徹する。 ・コロナに感染した利用者が出たか？→濃厚接触のヘルパーは2週間の休みになった。濃厚接触の利用者に訪問するヘルパーを固定にした。 ・陽性者に対してどういう対応をしているか→訪問看護にバトンタッチした。 ・コロナの恐怖からヘルパーの退職者が出た。 ・利用者の外出ができず、そのストレスをヘルパーにぶつけられる。 ●社会福祉協議会の役割紹介とケース検討会 社会福祉協議会とは何か。どういう仕事をしているのか。利用者がどういう場面で困っているときに、社会福祉協議会につなげばよいのか。 （例）後見人、金銭管理、車いす貸出、貸付 上記内容を社会福祉協議会の職員から説明する予定であった。また具体的事例を紹介することで、社会福祉協議会利用に対するハードルを下げることを目的とした。

2021 年度 【 障がい児 】 支援部会報告

部会テーマ【 自分たちの支援を高めるために 】

部 会 開 催	○幹事会議（7/29） ●第1回部会（9/16） 参加者 16 名 ・新型コロナによるあれこれについて話し合いましょう。
	○幹事会議（9/29） ○幹事×保健所感染対策課との懇談（10/11） ●第2回部会（11/22） 参加者 17 名 ・「新型コロナによるあれこれ」を受けて ・児童発達・放課後デイ「月 23 日」問題について
	●全体研修会（11/8） 参加者 58 名 「豊かな実践を育むケア会議の持ち方」 佛教大学・塩満卓先生
情 報 ・ 意 見 交 換 の 内 容	＜第1回部会＞新型コロナによるあれこれについて話し合いましょう。 ・ 事業の休止や、自粛について、保護者の理解を得ることについて、どの事業所も苦慮している。各事業所で、コロナに関する子どものストレスや家庭の不安に対して認識し、配慮をしている。マスクの装着について難しいお子さんも、各事業所におられる。これらのことや、発生時の対応等について、情報交換や情報共有が図れるとよい。 ・ 定期 PCR 検査その他、市からの補助を継続、充実していただきたい。 ＜第2回部会＞ ・ 第1回部会を受けて、保健所の感染対策担当者に質問し、その解答について資料としてまとめ共有した。 ・ 放課後等デイ、および児童発達支援事業の利用について、原則月 23 日までの利用とすることが、国から通知されており、他市では個別の事情への配慮なく、厳しくその原則を守った支給決定しかなされない…という事態も発生している。この場の意見交換にて、八尾市でもそういったケース（親の訴えが却下され 23 日以内となった）も一部みられたが、概ねは、保護者・事業所・相談支援が連携して訴えることにより、子どもの個別事情を勘案していただき、23 日を超える支給決定をしているということもわかった。八尾市では、今後も子ども自身の療育や多様な経験をさせることの必要性に応じて、勘案していただくことを今後お願いしたい。虐待防止の観点から必要な場合もある。 ・ 預ける日数が多くなるのは、父親の協力や職場の配慮が無いといった社会問題も背景にあること、また、地域の学童保育を利用できない子どもが多数いる実態も認識しておくことが必要である。 ・ ある事業所より、親がネグレクト気味と思われる家庭について、市障がい福祉へ相談したが、介入が難しいと言われたことがあった。一方で、別の事業所から、学校や相談支援との連携により対応している状態についての報告もあった。 ・ 不登校ケースに関する対応についても、今後話し合っていきたいとの要望もあった。 ⇒今後の部会にて、不登校および学校等との連携をテーマに協議。